

がんとはどんなもの？ 病理診断科

① 病気の種類と病理診断

病理診断科は、患者様から採取された組織や細胞を、病理専門医が肉眼や顕微鏡で詳細に観察することにより、病気の種類を突き止める役割を担っています。

病気には様々な種類があり、大きく5種類（先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍）に分類されます。がんは腫瘍に分類されます。少しだけ詳しく説明しましょう。

② まず腫瘍とは何ですか？

腫瘍とは、「体を作る細胞が、自律的に無目的かつ過剰に増殖する病気」です。異常な細胞がコントロールされずに無秩序に増殖し、腫瘤（できもの）を作ります。白血病の様に腫瘤を作らず、血液中でばらばらに増殖するものもあります。

③ 腫瘍の分類（悪性の腫瘍をがんといいます）

人の体を構成する細胞は、臓器や組織の機能を司る細胞（主に上皮性細胞）とそれを支持する細胞（主に非上皮性細胞）に分けられます。

腫瘍は様々な細胞から発生する為、元となる細胞の違いから上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍に分類されます。また腫瘍が体に与える悪影響の程度により、良性と悪性に主に分けられます。

1. 良性上皮性腫瘍
 2. 良性非上皮性腫瘍
 3. 悪性上皮性腫瘍（癌腫といいます）
 4. 悪性非上皮性腫瘍（主に肉腫といいます）
- 悪性の腫瘍である3と4をまとめて「がん」と呼びます。

④ 良性と悪性はどう違うのですか？

例外もありますが一般に、腫瘍による体の被害が部分的で命の危険が低いと良性、被害が著しく治療しないと死にいたらしめるものが悪性です。

良性腫瘍は発育速度が遅く、転移せず、再発も少ないという特徴があります。一方で悪性腫瘍は発育速度が速く、周囲組織を破壊し易く、また転移を生じ易く、再発のリスクも高いという特徴があります。

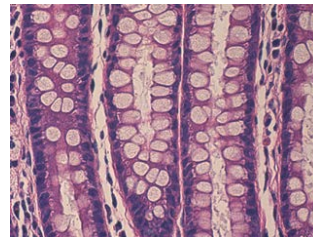
⑤ 「がん」（悪性腫瘍）の病理学的診断

正常な組織や細胞と比べ、腫瘍では形の異常（異型）が現れます。これを専門的に解析して腫瘍を病理診断します。良性腫瘍では異型の程度が低く、悪性腫瘍では高いことが多いです。

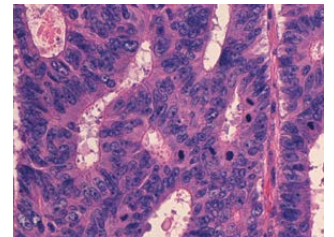
以下に**正常組織**と**悪性腫瘍**の例を顕微鏡撮影したもので示しますので、見比べて見ましょう。

I. 癌腫

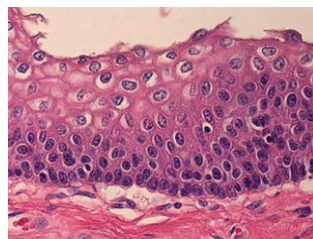
大腸粘膜



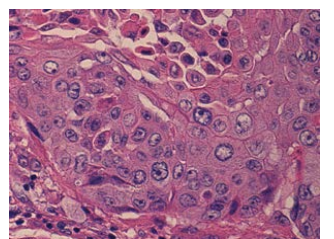
大腸の管状腺癌



食道粘膜

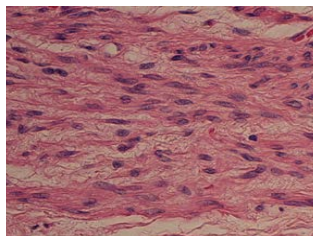


食道の扁平上皮癌

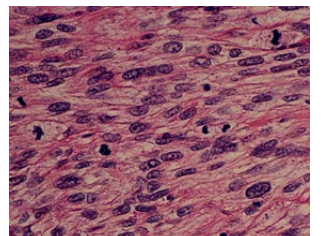


II. 肉腫

子宮平滑筋



子宮の平滑筋肉腫



⑥ 最新治療に結びつく「がん」の病理診断

各種のがんに特徴的な遺伝子やタンパク質を標的としてがんを治療する分子標的薬が多数開発されています。その薬を使えるかの判断にも病理診断が関わっています。コンパニ診断としての**免疫染色**と**分子標的薬**の例を下に示します。

乳癌 **HER2** **ハーセプチン** リンパ腫 **CD20** **リツキサン**

